

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

. 概況

【事業環境】

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、緩やかな回復が続いています。欧州では政府の債務問題の懸念が和らいだことや追加金融緩和に消極的との見方などからユーロが大きく上昇するなど、景気回復の兆しが見えてきました。米国では量的緩和縮小を決定するなど回復基調にあり、政府の財政政策に対する先行き不透明感は和らいできております。

国内経済は、景気回復への期待感や日銀の金融緩和、急激な円安による輸出型企業を中心とした企業業績の回復、株価上昇に加え、個人消費も緩やかに増加するなど景気回復が進みました。

I C T (Information and Communication Technology) 投資は、企業の設備投資の持ち直しの動きが見られ、緩やかに増加しております。

【第3四半期(直近3ヶ月)の概況】

(単位:億円)

	2012年度 第3四半期 〔2012年10月1日～ 2012年12月31日〕	2013年度 第3四半期 〔2013年10月1日～ 2013年12月31日〕	前年同期比	
				増減率(%)
売上高	10,482	12,007	1,524	〔7〕 14.5
売上原価	7,765	8,949	1,183	15.2
売上総利益 (売上総利益率)	2,717 (25.9%)	3,058 (25.5%)	341 (0.4%)	12.6
販売費及び一般管理費	2,775	2,796	20	0.7
営業利益 (営業利益率)	58 (0.6%)	261 (2.2%)	320 (2.8%)	-
営業外損益	67	44	22	33.0
経常利益	8	306	298	-
特別損益	871	186	685	-
税金等調整前四半期純利益	863	120	984	-
法人税等	58	12	45	-
少数株主利益	2	12	9	349.0
四半期純利益	808	120	928	-

〔 〕内は、為替影響を除く前年同期比増減率(%)

【第3四半期(累計)の概況】

(単位:億円)

	2012年度 第3四半期累計 〔2012年4月1日～ 2012年12月31日〕	2013年度 第3四半期累計 〔2013年4月1日～ 2013年12月31日〕	前年同期比	
				増減率(%)
売上高	31,200	33,523	2,322	〔0〕 7.4
営業利益 (営業利益率)	15 (0.0%)	370 (1.1%)	385 (1.1%)	-
経常利益	4	427	423	-
特別損益	869	206	663	-
四半期純利益	952	23	976	-

〔 〕内は、為替影響を除く前年同期比増減率(%)

<売上高及び営業利益の四半期別推移>

(単位:億円)

		2012年度				2013年度		
		第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期
連 結	売上高	9,573	11,144	10,482	12,616	9,992	11,523	12,007
	営業利益	267	310	58	897	228	336	261
	(営業利益率)	(2.8%)	(2.8%)	(0.6%)	(7.1%)	(2.3%)	(2.9%)	(2.2%)

[売上高及び営業利益の主要セグメント別内訳]

テクノロジー ソリューション	売上高	6,271	7,133	7,006	9,013	6,775	7,853	7,863
	営業利益	8	445	218	1,083	25	557	444
	(営業利益率)	(0.1%)	(6.2%)	(3.1%)	(12.0%)	(0.4%)	(7.1%)	(5.7%)
サービス	売上高	5,136	5,756	5,765	7,214	5,549	6,316	6,498
	営業利益	32	307	200	705	55	367	371
	(営業利益率)	(0.6%)	(5.3%)	(3.5%)	(9.8%)	(1.0%)	(5.8%)	(5.7%)
システム プラット フォーム	売上高	1,134	1,376	1,241	1,798	1,225	1,537	1,364
	営業利益	40	137	18	378	29	190	73
	(営業利益率)	(3.6%)	(10.0%)	(1.5%)	(21.0%)	(2.4%)	(12.4%)	(5.4%)
デバイス ソリューション	売上高	1,303	1,383	1,295	1,421	1,453	1,590	1,460
	営業利益	36	33	93	21	76	104	42
	(営業利益率)	(2.8%)	(2.4%)	(7.2%)	(1.5%)	(5.3%)	(6.5%)	(2.9%)
ユビキタス ソリューション	売上高	2,346	3,147	2,665	2,743	2,159	2,627	3,212
	営業利益	20	124	20	12	171	116	54
	(営業利益率)	(0.9%)	(4.0%)	(0.8%)	(0.5%)	(7.9%)	(4.4%)	(1.7%)

(注) 当社グループの海外子会社に適用している国際財務報告基準(IFRS)の「従業員給付」(IAS第19号)の改訂に伴い、2012年度の数値を遡及修正しております。この結果、販売費及び一般管理費が増加し、営業利益が第1四半期は16億円、第2四半期は16億円、第3四半期は17億円、第4四半期は19億円減少しました。セグメント利益への影響は、「サービス」で生じております。同様に経常利益や四半期純利益なども修正しております。

なお2012年度末の退職給付に係る未認識債務(海外制度分)1,573億円をオンバランスしたことにより、純資産額が減少しております。

<2013年度第3四半期 特別損益の主な内容>

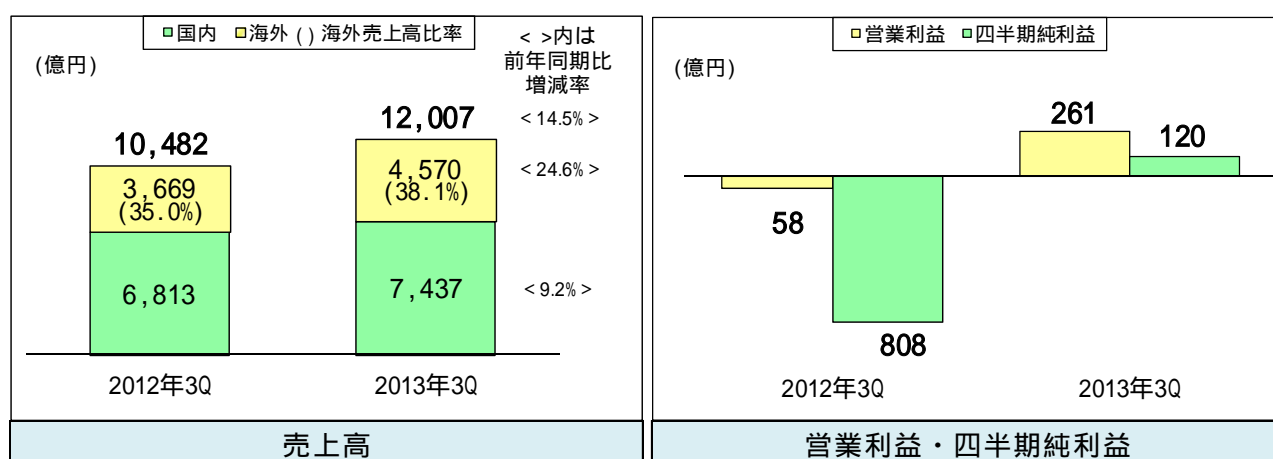
(単位:億円)

項 目	金 額	主 な 内 容
特別利益	38	
固定資産売却益	21	南多摩工場跡地の売却に係る利益
投資有価証券売却益	16	(株)富士通ゼネラルの株式の売却に係る利益
特別損失	224	
為替換算調整勘定取崩損	205	米国子会社Fujitsu Management Services of America, Inc.の清算に伴う「為替換算調整勘定」の取崩しにより発生した損失
事業構造改善費用	18	海外事業の人員関連費用およびLSI事業の構造改革費用

第3四半期(直近3ヶ月)

以下の文中において、当第3四半期連結会計期間を当第3四半期、当第3四半期連結累計期間を当第3四半期(累計)、前年同四半期連結会計期間及び前年同四半期連結累計期間を前年同期と記載しております。また、文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の対円平均レートを当第3四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

【損益の状況】



売上高は1兆2,007億円と、前年同期比14.5%の増収になりました。国内は9.2%の増収です。システムインテグレーションが公共、金融向けを中心に伸長し、パソコンも法人向けを中心に増収となりました。海外は24.6%の増収ですが、為替影響を除くと2%の増収です。北米向けのオーディオ・ナビゲーション機器やLSIが増収となりました。

米ドルの平均レートは100円(前年同期比19円の円安)、ユーロは137円(前年同期比32円の円安)、英ポンドは163円(前年同期比33円の円安)となり、為替影響により売上高が前年同期比で約800億円増加しております。海外売上高比率は38.1%と、前年同期比3.1ポイント上昇しました。

売上総利益は3,058億円と、増収効果や各種施策の効果により前年同期比341億円の増益になりました。売上総利益率は25.5%と、携帯電話の採算悪化により前年同期比0.4ポイント低下しました。

販売費及び一般管理費は2,796億円と、為替影響などにより前年同期比20億円増加しました。グループベースでの費用効率化を進め、為替影響を除く実質ベースでは減少しております。

この結果、営業利益は261億円と、前年同期比320億円の改善となりました。テクノロジーソリューションを中心とした業績の改善に加え、LSI事業や海外事業での構造改革や人事施策が寄与しました。

経常利益は306億円と、前年同期比298億円の増益になりました。営業外損益は為替差益45億円の計上などにより44億円となりました。前年同期に比べ、為替差益の減少などにより22億円悪化しました。

固定資産売却益21億円、投資有価証券売却益16億円をそれぞれ特別利益に計上しました。一方、米国子会社Fujitsu Management Services of America, Inc.の清算に伴う為替換算調整勘定の取崩し損失205億円を特別損失に計上しました。

四半期純利益は120億円となりました。米国子会社の清算に伴い税負担が軽減されました。前年同期からは928億円の改善となりました。経常利益の増益に加え、前年同期に多額の特別損失の計上があったことにより増益となりました。

①セグメント情報

（単位：億円）

		2012年度 第3四半期	2013年度 第3四半期	前年同期比		
		〔2012年10月1日～ 2012年12月31日〕	〔2013年10月1日～ 2013年12月31日〕	増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジー ソリューション	売上高	7,006	7,863	857	12.2	5
	国内	4,512	4,831	319	7.1	7
	海外	2,493	3,031	538	21.6	0
	営業利益 (営業利益率)	218 (3.1%)	444 (5.7%)	226 (2.6%)	103.6	
サービス	売上高	5,765	6,498	733	12.7	5
	営業利益 (営業利益率)	200 (3.5%)	371 (5.7%)	170 (2.2%)	85.3	
システム プラットフォーム	売上高	1,241	1,364	123	9.9	5
	営業利益 (営業利益率)	18 (1.5%)	73 (5.4%)	55 (3.9%)	305.3	
ユビキタス ソリューション	売上高	2,665	3,212	547	20.6	15
	国内	2,003	2,342	338	16.9	17
	海外	661	870	209	31.7	10
	営業利益 (営業利益率)	△20 (△0.8%)	△54 (△1.7%)	△33 (△0.9%)	-	
デバイス ソリューション	売上高	1,295	1,460	165	12.8	2
	国内	730	733	2	0.4	0
	海外	564	727	162	28.8	4
	営業利益 (営業利益率)	△93 (△7.2%)	42 (2.9%)	135 (10.1%)	-	
L S I	営業利益	△59	38	98	-	
電子部品	営業利益	△33	3	37	-	
その他/ 消去又は全社	売上高	△483	△529	△45	-	-
	営業利益	△163	△170	△7	-	
連結	売上高	10,482	12,007	1,524	14.5	7
	国内	6,813	7,437	623	9.2	9
	海外	3,669	4,570	900	24.6	2
	営業利益 (営業利益率)	△58 (△0.6%)	261 (2.2%)	320 (2.8%)	-	

②売上高の主要製品別内訳

（単位：億円）

	2012年度 第3四半期 〔2012年10月1日～ 2012年12月31日〕	2013年度 第3四半期 〔2013年10月1日～ 2013年12月31日〕	前年同期比		
			増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジーソリューション	7,006	7,863	857	12.2	5
サービス	5,765	6,498	733	12.7	5
ソリューション/SI	1,948	2,219	271	13.9	14
インフラサービス	3,817	4,279	462	12.1	0
システムプラットフォーム	1,241	1,364	123	9.9	5
システムプロダクト	586	621	35	6.0	1
ネットワークプロダクト	654	743	88	13.5	8
ユビキタスソリューション	2,665	3,212	547	20.6	15
パソコン/携帯電話	2,069	2,426	356	17.2	13
モバイルウェア	595	786	191	32.1	24
デバイスソリューション	1,295	1,460	165	12.8	2
LSI	706	780	74	10.5	0
電子部品	593	682	89	15.1	4

(注)1. 売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。

2. 為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の対円平均レートを当第3四半期の外貨建取引高に適用して試算しております。

3. 「LSI」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

4. 「その他/消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等のほか、基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用が含まれております。

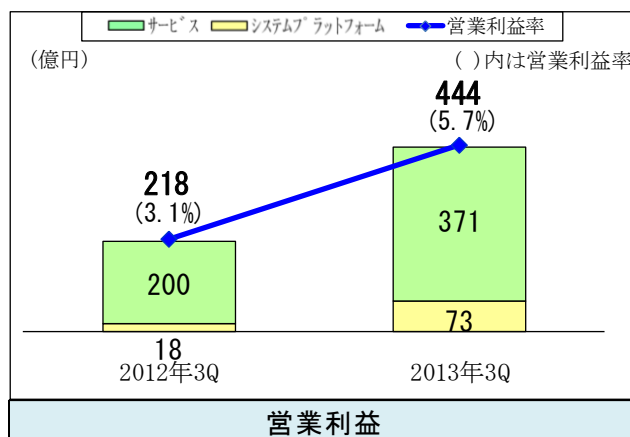
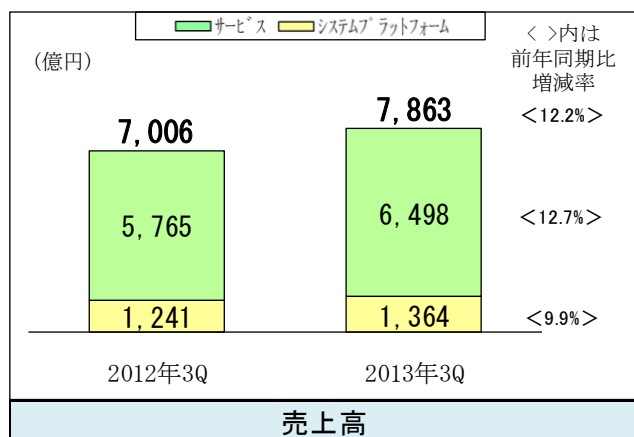
5. 2012年度第3四半期の数値については、改訂IAS第19号適用により遡及修正を行っております。この結果、営業利益が「サービス」で17億円減少しております。

【セグメント別の状況】

当第 3 四半期のセグメント別の売上高（セグメント間の内部売上高を含む）及び営業利益は以下のとおりです。

<事業別>

テクノロジーソリューション



売上高は7,863億円と、前年同期比12.2%の増収になりました。国内は7.1%の増収です。システムインテグレーションは、顧客の投資拡大により公共、金融向けを中心に増収となりました。ネットワークプロダクトは、通信トラフィックの増加に伴う3G通信機器の需要は一巡したものの、通信キャリアのLTEサービスエリアの拡大および高速化に向けた投資により全体としては増収になりました。サーバ関連は公共向けの大型システム商談が寄与し増収となりました。インフラサービスはアウトソーシングが堅調に推移しましたが、前年同期に通信トラフィックの増加対策を背景としたネットワークサービス関連の需要増があったため、前年同期並みになりました。海外は21.6%の増収になりましたが、為替影響を除くと前年同期並みです。

営業利益は444億円と、前年同期比226億円の増益になりました。国内では、ネットワークサービスの減収影響があったものの、システムインテグレーションやネットワークプロダクトの増収効果のほか、人事施策の効果などにより、大幅な増益になりました。海外では構造改革効果やのれんの償却費負担減がありました。

(単位：億円)

	2013年度 第3四半期	前年同期比
売上高	7,863	12.2%
国内	4,831	7.1%
海外	3,031	21.6%
営業利益	444	226

① サービス

(単位：億円)

売上高は 6,498 億円と、前年同期比 12.7%の増収になりました。国内は 6.9%の増収です。システムインテグレーションは、顧客の投資拡大により公共、金融向けを中心に増収となりました。インフラサービスはアウトソーシングが堅調に推移しましたが、前年同期に通信トラフィックの増加対策を背景としたネットワークサービス関連の需要増があったため、前年同期並みになりました。海外は 22.3%の増収になりましたが、為替影響を除くと前年同期並みです。

	2013 年度 第 3 四半期	前年同期比
売上高	6,498	12.7 %
国内	3,820	6.9 %
海外	2,678	22.3 %
営業利益	371	170

営業利益は 371 億円と、前年同期比 170 億円の増益になりました。国内では、ネットワークサービスの減収影響があったものの、システムインテグレーションの増収効果や人事施策の効果などにより、増益になりました。海外では、構造改革効果やのれんの償却費負担減がありました。

② システムプラットフォーム

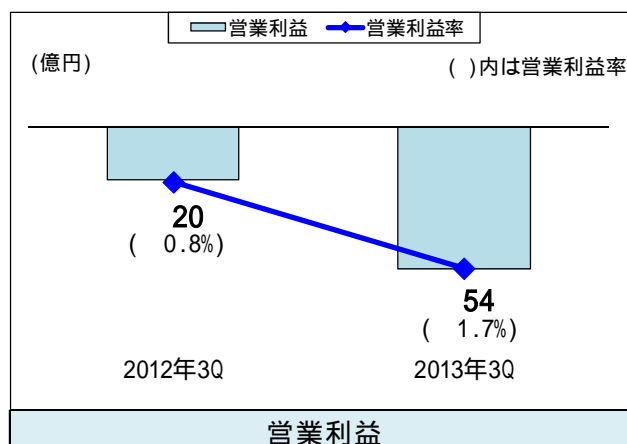
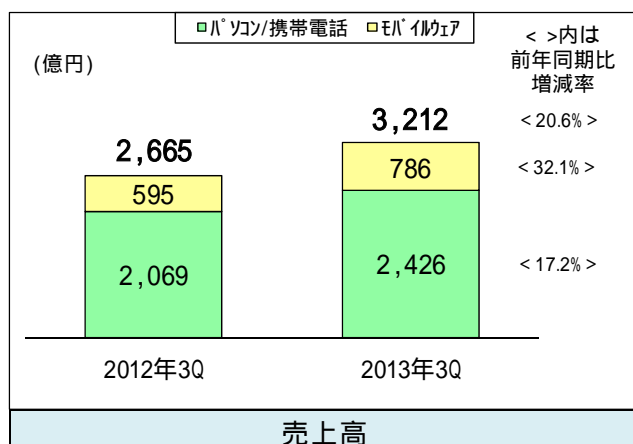
(単位：億円)

売上高は 1,364 億円と、前年同期比 9.9%の増収になりました。国内は 7.8%の増収です。ネットワークプロダクトは、通信トラフィックの増加に伴う 3G 通信機器の需要は一巡したものの、通信キャリアの LTE サービスエリアの拡大および高速化に向けた投資により全体としては増収になりました。サーバ関連は公共向けの大型システム商談が寄与し増収となりました。海外は 16.6%の増収になり、為替影響を除くと 5%の減収です。UNIX サーバの新製品販売が伸び悩みました。

	2013 年度 第 3 四半期	前年同期比
売上高	1,364	9.9 %
国内	1,011	7.8 %
海外	352	16.6 %
営業利益	73	55

営業利益は 73 億円と、前年同期比 55 億円の増益になりました。国内はネットワークプロダクトの先行開発投資負担があったものの、増収効果がありました。

ユビキタスソリューション



(単位：億円)

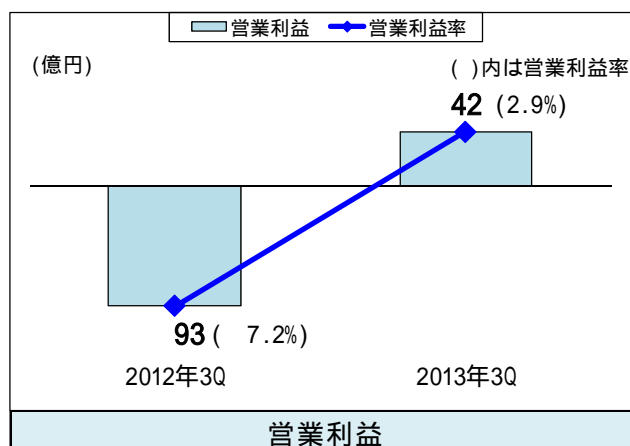
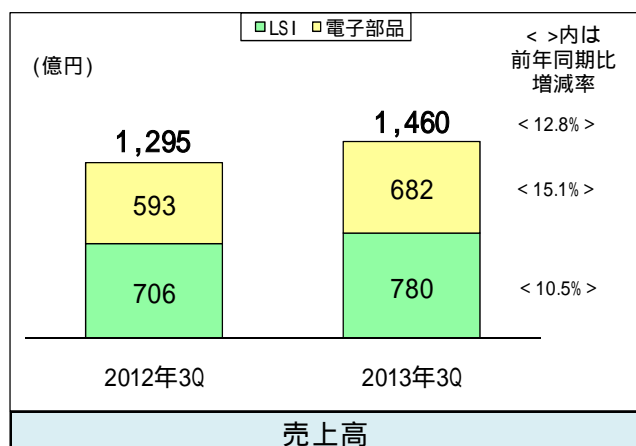
売上高は3,212億円と、前年同期比20.6%の増収になりました。国内は16.9%の増収です。パソコンは法人向けがOSの製品サポート終了に伴う買い替え需要により大幅な増収になりました。個人向けは市場の縮小による販売台数の減少により減収になりましたが、パソコン全体としては増収になりました。携帯電話は上半期に大幅な減収となっていましたが、当第3四半期は通信キャリアの推奨機種に選定されたことなどにより増収になりました。モバイルウェアのオーディオ・ナビゲーション機器はエコカー補助金制度終了後低迷していた新車販売台数が回復した影響により増収になりました。海外は31.7%の増収になり、為替影響を除いても10%の増収です。パソコンは採算を重視する販売方針により欧州拠点の販売台数が減少しましたが、モバイルウェアが北米向けを中心に増収となりました。

	2013年度 第3四半期	前年同期比
売上高	3,212	20.6%
国内	2,342	16.9%
海外	870	31.7%
営業利益	54	33

営業利益は54億円の損失と、前年同期比33億円の悪化になりました。国内では、携帯電話は機能向上や円安によるコスト増加に加えて、販売単価の下落影響がありました。パソコンの増収効果がありました。モバイルウェアは増収効果があったものの開発投資負担が増加しました。海外では、パソコンで前年同期に米ドルに対してユーロ安が進んだことにより欧州でのドル建ての部材調達コストが増加した影響がありました。また、モバイルウェアの増収効果もありました。

当社グループの携帯電話ビジネスでは、富士通モバイルフォンプロダクツ株式会社(本社：栃木県大田原市)と富士通周辺機株式会社(本社：兵庫県加東市)の2つの量産工場を2014年4月をめぐりに統合し、量産品製造機能を富士通周辺機株式会社に集約することにしました。高い生産性と物量変動に左右されないフレキシビリティを持った量産工場を目指します。開発体制についても共通化によるスリム化を図り、企業向けソリューション事業や自動車をはじめとした新規事業領域へ人員をシフトします。今後も魅力ある端末を、端末から派生するサービスとともに提供してまいります。

デバイスソリューション



(注)「LSI」の売上高には「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。

売上高は1,460億円と、前年同期比12.8%の増収になりました。国内はほぼ前年同期並みです。LSIは、サーバや産業機器向けを中心に減収となりました。また、上半期に好調だったスマートフォン向けも伸び悩みました。一方、電子部品は半導体パッケージや電池が前年同期並みにとどまりましたが、通信機器向け光送受信モジュールが増収となりました。海外は28.8%の増収ですが、為替影響を除くと4%の増収です。LSIが米州、アジア向けで伸長しました。

(単位：億円)

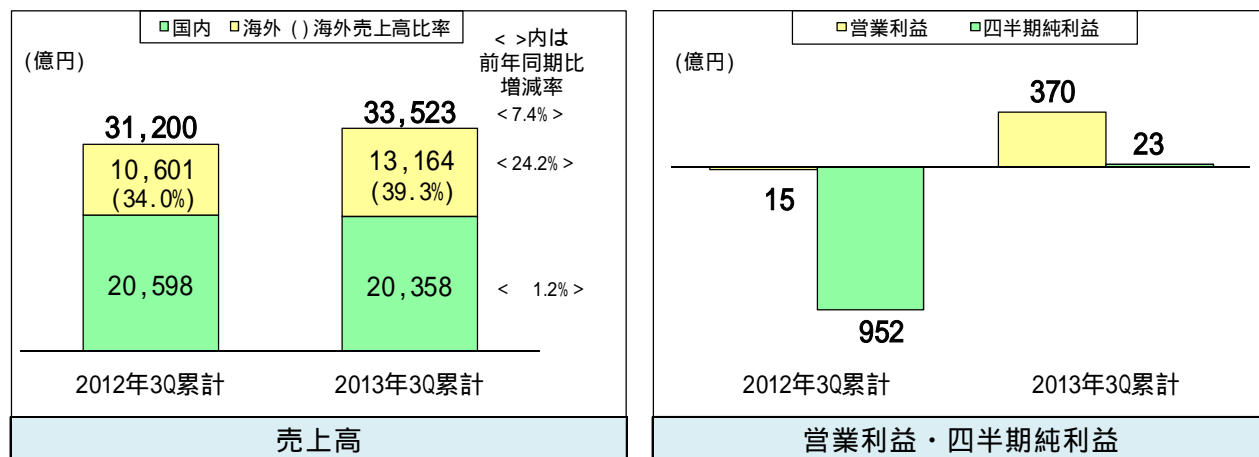
	2013年度 第3四半期	前年同期比
売上高	1,460	12.8%
国内	733	0.4%
海外	727	28.8%
営業利益	42	135

営業利益は42億円と、前年同期比135億円の改善になりました。国内では、LSIでの早期退職優遇制度の実施などによる固定費削減効果や、電子部品での増収効果がありました。海外では、LSI、電子部品ともに所要増に加え、円安による増収効果がありました。

第3四半期(累計)

文中に記載しております為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の対円平均レートを当第3四半期(累計)の外貨建取引高に適用して試算しております。

【損益の状況】



売上高は3兆3,523億円と、7.4%の増収になりました。国内は1.2%の減収です。システムインテグレーションが公共、金融向けを中心に伸長したほか、パソコン、オーディオ・ナビゲーション機器も増収となりましたが、上半期を中心に携帯電話が大幅に減収となりました。海外は24.2%の増収ですが、為替影響を除くと3%の増収です。欧州向けパソコンや、北米向けUNIXサーバが減収になりましたが、北米向けのオーディオ・ナビゲーション機器や光伝送システムが伸長したほか、LSI、電子部品も増収となりました。

米ドルの平均レートは99円(前年同期比19円の円安)、ユーロは132円(前年同期比30円の円安)、英ポンドは156円(前年同期比29円の円安)となり、為替影響により売上高が前年同期比で約2,300億円増加し、海外売上高比率は39.3%と、前年同期比5.3ポイント上昇しました。

売上総利益は8,759億円と、前年同期比440億円の増益になりました。携帯電話の減収影響はありましたが、為替影響や各種施策の効果などによります。売上総利益率は26.1%と、携帯電話の採算悪化により前年同期比0.6ポイント低下しました。

販売費及び一般管理費は8,389億円と、為替影響などにより前年同期比55億円増加しました。グループベースでの費用効率化を進め、為替影響を除く実質ベースでは減少しております。

この結果、営業利益は370億円と、前年同期比385億円の改善となりました。LSI事業や海外事業での構造改革効果約210億円に加え、人事施策の効果約190億円が寄与したことによります。

経常利益は427億円と、前年同期比423億円の増益になりました。営業外損益は57億円と、前年同期に比べ為替差損益を中心に38億円の改善となりました。

特別利益として、投資有価証券売却益35億円、固定資産売却益21億円を計上しました。一方、米国子会社Fujitsu Management Services of America, Inc.の清算に伴う為替換算調整勘定の取崩し損失205億円や、海外事業やLSI事業に係る事業構造改善費用55億円を特別損失に計上しました。

四半期純利益は23億円と、前年同期比976億円の改善となりました。経常利益の増益に加え、前年同期に多額の特別損失の計上があったことによります。

①セグメント情報

（単位：億円）

		2012年度 第3四半期累計 〔2012年4月1日～ 2012年12月31日〕	2013年度 第3四半期累計 〔2013年4月1日～ 2013年12月31日〕	前年同期比		
				増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジー ソリューション	売上高	20,410	22,493	2,082	10.2	3
	国内	13,317	13,875	557	4.2	4
	海外	7,093	8,617	1,524	21.5	1
	営業利益 (営業利益率)	655 (3.2%)	1,027 (4.6%)	372 (1.4%)	56.7	
サービス	売上高	16,658	18,365	1,707	10.2	3
	営業利益 (営業利益率)	540 (3.2%)	793 (4.3%)	252 (1.1%)	46.8	
システム プラットフォーム	売上高	3,752	4,127	375	10.0	4
	営業利益 (営業利益率)	115 (3.1%)	234 (5.7%)	119 (2.6%)	103.4	
ユビキタス ソリューション	売上高	8,158	7,999	△159	△1.9	△7
	国内	6,264	5,628	△636	△10.2	△10
	海外	1,894	2,371	477	25.2	5
	営業利益 (営業利益率)	83 (1.0%)	△341 (△4.3%)	△425 (△5.3%)	-	
デバイス ソリューション	売上高	3,981	4,505	523	13.1	2
	国内	2,232	2,149	△82	△3.7	△4
	海外	1,749	2,355	605	34.6	9
	営業利益 (営業利益率)	△163 (△4.1%)	222 (4.9%)	386 (9.0%)	-	
L S I	営業利益	△152	121	274	-	
電子部品	営業利益	△10	100	111	-	
その他/ 消去又は全社	売上高	△1,351	△1,475	△124	-	-
	営業利益	△591	△538	52	-	
連結	売上高	31,200	33,523	2,322	7.4	0
	国内	20,598	20,358	△240	△1.2	△1
	海外	10,601	13,164	2,562	24.2	3
	営業利益 (営業利益率)	△15 (△0.0%)	370 (1.1%)	385 (1.1%)	-	

②売上高の主要製品別内訳

（単位：億円）

	2012年度 第3四半期累計 〔2012年4月1日～ 2012年12月31日〕	2013年度 第3四半期累計 〔2013年4月1日～ 2013年12月31日〕	前年同期比		
			増減率(%)	為替影響を 除く 増減率(%)	
テクノロジーソリューション	20,410	22,493	2,082	10.2	3
サービス	16,658	18,365	1,707	10.2	3
ソリューション/S I	5,755	6,363	607	10.6	10
インフラサービス	10,902	12,002	1,099	10.1	△1
システムプラットフォーム	3,752	4,127	375	10.0	4
システムプロダクト	1,694	1,778	83	5.0	0
ネットワークプロダクト	2,057	2,348	291	14.1	7
ユビキタスソリューション	8,158	7,999	△159	△1.9	△7
パソコン/携帯電話	6,269	5,689	△580	△9.3	△13
モバイルウェア	1,889	2,310	421	22.3	15
デバイスソリューション	3,981	4,505	523	13.1	2
L S I	2,147	2,390	243	11.3	1
電子部品	1,844	2,126	282	15.3	3

- (注)1. 売上高にはセグメント間の内部売上高を含みます。
2. 為替影響は、米ドル、ユーロ、英ポンドを対象に前年同期の対円平均レートを当第3四半期（累計）の外貨建取引高に適用して試算しております。
3. 「L S I」の売上高には、「電子部品」への内部売上高を含めて表示しております。
4. 「その他/消去又は全社」には、次世代スーパーコンピュータ事業、当社グループ会社向け情報システム開発・ファシリティサービス事業及び当社グループ従業員向け福利厚生事業等のほか、基礎的試験研究等の戦略費用及び親会社におけるグループ経営に係る共通費用が含まれております。
5. 2012年度第3四半期累計の数値については、改訂IAS第19号適用により遡及修正を行っております。この結果、営業利益が「サービス」で50億円減少しております。

【セグメント別の状況】

当第3四半期(累計)のセグメント別の売上高(セグメント間の内部売上高を含む)及び営業利益は以下のとおりです。

<事業別>

テクノロジーソリューション

(単位:億円)

売上高は2兆2,493億円と、前年同期比10.2%の増収になりました。国内は4.2%の増収です。システムインテグレーションは、顧客の投資拡大により公共、金融向けを中心に増収となりました。ネットワークプロダクトは、通信トラフィックの増加に伴う3G通信機器の需要は一巡したものの、通信キャリアのLTEサービスエリアの拡大および高速化に向けた投資により全体としては増収になりました。サーバ関連は公共向けの大型システム商談が寄与し増収となりました。インフラサービスはアウトソーシングが堅調に推移しましたが、前年同期に通信トラフィックの増加対策を背景としたネットワークサービス関連の需要増があったほか、ISP事業で回線料金込みのパック商品から単体商品へシフトしている影響により減収になりました。海外は21.5%の増収になりましたが、為替影響を除くと前年同期並みです。

	2013年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	22,493	10.2%
国内	13,875	4.2%
海外	8,617	21.5%
営業利益	1,027	372

営業利益は1,027億円と、前年同期比372億円の増益になりました。国内では、ネットワークサービスの減収影響があったものの、システムインテグレーションやネットワークプロダクトなどの増収効果のほか、人事施策の効果などにより増益になりました。海外では構造改革効果やのれんの償却費負担減に加えて、ネットワークプロダクトの増収効果がありました。

サービス

(単位:億円)

売上高は1兆8,365億円と、前年同期比10.2%の増収になりました。国内は4.2%の増収です。システムインテグレーションは、顧客の投資拡大により公共、金融向けを中心に増収となりました。インフラサービスはアウトソーシングが堅調に推移しましたが、前年同期に通信トラフィックの増加対策を背景としたネットワークサービス関連の需要増があったほか、ISP事業で回線料金込みのパック商品から単体商品へシフトしている影響により減収になりました。海外は20.6%の増収になりましたが、為替影響を除くと前年同期並みです。

	2013年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	18,365	10.2%
国内	10,931	4.2%
海外	7,433	20.6%
営業利益	793	252

営業利益は793億円と、前年同期比252億円の増益になりました。国内では、ネットワークサービスなどの減収影響があったものの、システムインテグレーションの増収効果や人事施策の効果などにより、増益になりました。海外では、構造改革効果やのれんの償却費負担減がありました。

システムプラットフォーム

(単位:億円)

売上高は4,127億円と、前年同期比10%の増収になりました。国内は4.2%の増収です。ネットワークプロダクトは、通信トラフィックの増加に伴う3G通信機器の需要は一巡したものの、通信キャリアのLTEサービスエリアの拡大および高速化に向けた投資により全体としては増収になりました。サーバ関連は公共向けの大型システム商談が寄与し増収となりました。

海外は27.6%の増収になり、為替影響を除いても3%の増収です。UNIXサーバの新製品販売が伸び悩みましたが、北米向け光伝送システムは通信キャリアの投資回復により増収になりました。

	2013年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	4,127	10.0%
国内	2,943	4.2%
海外	1,183	27.6%
営業利益	234	119

営業利益は234億円と、前年同期比119億円の増益になりました。国内はネットワークプロダクトの先行開発投資負担があったものの、増収効果がありました。海外では、ネットワークプロダクトの増収効果やPCサーバで採算重視の販売方針による効果がありました。

ユビキタスソリューション

(単位:億円)

売上高は7,999億円と、前年同期比1.9%の減収になりました。国内は10.2%の減収です。パソコンは法人向けがOSの製品サポート終了に伴う買い替え需要により大幅な増収になりました。個人向けは市場の縮小による販売台数の減少により減収になりました。パソコン全体としては増収になりました。携帯電話は当第3四半期では増収になったものの、前年度第2四半期に新機種発売が重なり四半期で過去最高の出荷台数であったことに加え、フィーチャーフォンの市場縮小やスマートフォンでの通信キャリアの販売方針見直し影響により減収になりました。モバイルウェアのオーディオ・ナビゲーション機器はエコカー補助金制度終了後低迷していた新車販売台数が回復した影響により増収になりました。海外は25.2%の増収になり、為替影響を除いても5%の増収です。パソコンは採算を重視する販売方針により欧州拠点の販売台数が減少しましたが、モバイルウェアが北米向けを中心に増収となりました。

	2013年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	7,999	1.9%
国内	5,628	10.2%
海外	2,371	25.2%
営業利益	341	425

営業利益は341億円の損失と、前年同期比425億円の悪化になりました。国内では、携帯電話における販売台数の大幅な減少や販売単価の下落に加え、機能向上や円安によるコスト増加の影響がありました。パソコンは円安に伴う調達コストの増加はあったものの、販売価格への転嫁および増収効果がありました。モバイルウェアは増収効果があったものの開発投資負担が増加しました。海外では、パソコンで採算重視の販売方針による効果があったほか、前年同期に米ドルに対してユーロ安が進んだことにより欧州でのドル建ての部材調達コストが増加した影響がありました。また、モバイルウェアの増収効果もありました。

営業利益は341億円の損失と、前年同期比425億円の悪化になりました。国内では、携帯電話における販売台数の大幅な減少や販売単価の下落に加え、機能向上や円安によるコスト増加の影響がありました。パソコンは円安に伴う調達コストの増加はあったものの、販売価格への転嫁および増収効果がありました。モバイルウェアは増収効果があったものの開発投資負担が増加しました。海外では、パソコンで採算重視の販売方針による効果があったほか、前年同期に米ドルに対してユーロ安が進んだことにより欧州でのドル建ての部材調達コストが増加した影響がありました。また、モバイルウェアの増収効果もありました。

デバイスソリューション

(単位:億円)

売上高は4,505億円と、前年同期比13.1%の増収になりました。国内は3.7%の減収です。LSIは上半期を中心にスマートフォン向けが伸長しましたが、デジタルAVや産業機器向けを中心に減収になりました。電子部品は半導体パッケージや電池は減収になりましたが、通信機器向け光送受信モジュールが増収となり、全体としては前年同期並みになりました。海外は34.6%の増収ですが、為替影響を除くと9%の増収です。LSIはスマートフォン向けが増収となりました。電子部品は、米州や中国向けが増収になりました。

	2013年度 第3四半期累計	前年同期比
売上高	4,505	13.1%
国内	2,149	3.7%
海外	2,355	34.6%
営業利益	222	386

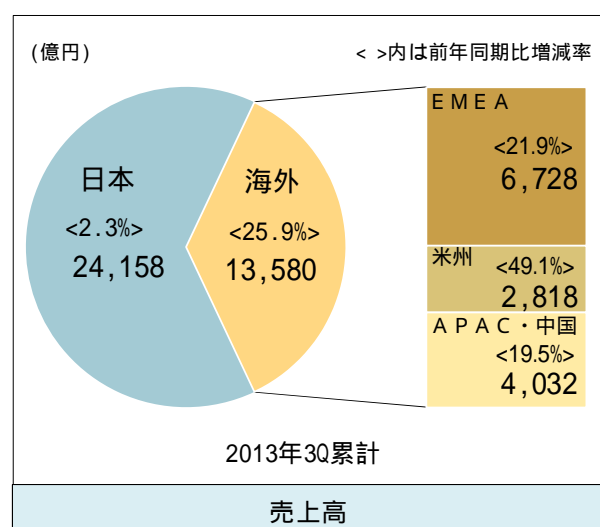
営業利益は222億円と、前年同期比386億円の改善となりました。国内では、LSIが減収影響はあったものの、早期退職優遇制度の実施などによる固定費削減効果がありました。300mmラインは上半期を中心としたスマートフォン向けの所要増などにより高水準の稼働を維持しましたが、基盤ラインは引き続き低水準となりました。今後、基盤ラインは会津若松地区への集約を進め稼働を高めていく予定です。海外では、LSI、電子部品ともに所要増に加え、円安による増収効果がありました。

その他/消去又は全社

営業利益は538億円の損失と、前年同期比52億円の改善となりました。全社的な費用効率化を進めたことなどによります。

<所在地別>

当社及び連結子会社が所在する国又は地域ごとの売上高及び営業利益は以下のとおりです。



〔営業利益〕

(単位:億円)

	2013年 3Q	前年 同期比	2013年 3Q累計	前年 同期比
日本	401 (4.6%)	262 (2.8%)	880 (3.6%)	118 (0.4%)
海外	54 (1.2%)	47 (1.0%)	57 (0.4%)	237 (2.1%)
EMEA (欧州・中近東・アジア)	29 (1.2%)	37 (1.6%)	58 (0.9%)	142 (2.7%)
米州	9 (1.1%)	2 (0.9%)	33 (1.2%)	72 (3.3%)
APAC・中国 (アジア・パシフィック)	35 (2.6%)	7 (0.1%)	82 (2.0%)	22 (0.2%)

(注)()内は営業利益率

なお、2012年度第3四半期及び第3四半期累計の数値については、改訂IAS第19号適用により遡及修正を行っております。この結果、営業利益は海外において主にEMEAでそれぞれ17億円、50億円減少しております。